

---

# カゲロウデイズ 小説にしてみた

くろ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

カゲロウデイズ 小説にしてみた

### 【NNコード】

N6829Z

### 【作者名】

くる

### 【あらすじ】

主人公 悠斗 (ゆうと)

ヒロイン 礼奈 (れいな)

これ以上の登場人物は出ないと 思います・・・  
あ。 でるときもあるかも

## 夏（前書き）

初めまして。くろと申します。連載小説ははじめて挑戦します。  
今回書くのは私の大好きなボカロ曲「カゲロウデイズ」と「ヘッド  
フォンアクター」

という歌を小説にしたもののです。

駄文、乱文でも全然かまわないという偉大なお方はどうぞ最後まで  
ゆっくりしていってください。

批判、中傷的なコメントは控えてください。

アドバイスをくれるなら尻尾振つて喜びますw

8月15日午後12時半頃

病気になりそうなほど天気がいい

日差しが肌に突き刺さって痛い。今日はどうやら最高気温を更新するようだ

悠斗は公園のブランコに座つてちらりと携帯を見た

「ねえ悠斗？話しかけてる？」

「お、わりい。聞いてなかつた」

悠斗の隣のブランコに座つているのは彼女の礼奈  
2人は去年の秋から付き合つている。

元々仲がよかつた2人がさらに距離を縮めるのにはそう時間はかかるなかつた

悠斗も礼奈もこうなることを心のどこかで望んでいたのだろう  
付き合い始めて半年経つ今日。

どこかに行くわけでもなく、いつもの公園でただ2人で駄弁つていた  
「にしても今日はホントに暑いな・・・」

悠斗は着ていた半そでを捲り上げて自分をあおいだ。

生ぬるい風が逆に気持ち悪い

しかし、悠斗はそんな夏が大好きだった。夏休みもあるし、いろんなところに遊びにいける。

宿題があるのが最大の難点だが、それさえ乗り越えてしまえば楽し  
いことしかない

それに礼奈との想い出を増やす絶好のチャンスだ  
そんなことを考えていると自然と頬が緩み口元がにやけてしまった

「悠斗ったら何にやけてるの？」

「いや、なんでもねえよ」

「どーせ悠斗のことだから夏休み早くこいとか、どこかに遊びに行  
きたいって思つてんでしょう？」

顔に書いてあるよ

的を射たことを言われ、悠斗はつい苦笑いになつた

「ばれたか」

「当たり前でしょ」

礼奈は得意げに笑つた

礼奈の笑顔は綺麗だ。筋の通つている鼻や、大きな瞳。そして小柄  
で色白ときたものだ。

かなりの美人になるだろうと近所のおばさんたちは礼奈を見るたび  
に言つた。

夏（後書き）

うーむ・・・最初っからやがやがで申し訳ないですorz

## もう1人

ふと足元を見ると黒猫が礼奈の足元に擦り寄つてきていたのが見えた

「猫！かわいい！！」

猫が大好きな礼奈はすぐさま抱き上げて膝におく。  
礼奈はかわいいものには目がなかつた。

キラキラしたものやあまり派手なものは好みないが  
程よい可愛さのものには目がない

猫もゴロゴロのどを鳴らしながら礼奈の膝の上で眠ろうとしている  
悠斗はそれを嫌悪の目で見つめていた

猫は好かないのだ。猫か犬かと枯れたすぐに犬と答える  
小さいとき大きな猫に追いかけられた記憶があるので  
いまだにトラウマでよく礼奈にバカにされた。

「でもまあ、夏は嫌いかな」

礼奈は猫をなでながらふてふてしく咳いた

「え？ 何で？」

「のどが無性に渴くから！」

礼奈は子供っぽく笑いながら自動販売機を指差した  
ずっとのどが渴いていたのだろう

「仕方ねえなあ・・・何がいい？」

「一緒にいくー！」

しぶしぶ立ち上がった悠斗に対し、礼奈は猫を抱きかかえたまま嬉しそうに立ち上がった。

「猫置いてけよ」

悠斗は少しへビクビクしながら猫を抱き差した

「いいじゃん。かわいいんだからや。あつ

猫が勢いよく礼奈の腕の中から飛び出した

「まつてよー」

礼奈も跡を追う。悠斗はただその光景を眺めていた  
猫は道路の方に逃げた。礼奈も跡を追う  
おい、もつ道路だぞ？？！

「礼奈ーーー！」

叫んだときにはもう遅かった。赤に変わった信号機  
ドンという鈍い音が町に響いた。トラックが一人の少女を引きずつ  
て泣き叫ぶ

生で見る血飛沫の色はかなり赤くて、リアルで・・・  
血の匂いが鼻を突き刺す。気持ち悪い・・・

「あ・・・れ・・・いな・・・嘘だよな・・・？」

悠斗は口をおさえてがたがたと振るえていた

「クスクスツ・・・嘘だと思ひへ」

「え？」

ふと横を見ると俺と同じ顔をしている男がいる。  
嘘だ。礼奈が死ぬなんて俺は信じない。

「嘘じやないぞ」

蝉の音がうるさい夏の出来事。

血の匂いで気持ち悪くなつた悠斗の意識が朦朧としてきた  
もう前が真つ暗・・・  
それなのになぜかもう一人の自分が笑つてているのははつきりと分か  
つた

## 夢（福井県）

ホントに文がめちゃくちゃで・・・「ねんななこーおー

ハツと氣付いて田を覚ますといつもの見なれた天井があつた  
なんだ・・・やつぱり夢か・・・

内心ほつとした悠斗は大きな伸びをして、手元にあつた携帯を開いた  
8月1~4日の午前1~2時過ぎくらいをさそうとしている  
テレビをつけるとお昼のニュースが始まっていた

「8月1~4日、お昼のニュースをお伝えいたします」

テレビ画面に映つた若い女性アナウンサーの透き通つた声が耳に滑  
り込んでくる  
とても聞きやすい

「やべつ・・・公園行かなきや・・・」

悠斗は外に飛び出して公園に向かつた  
暑い。何もしてなくとも汗が出てくる  
それなのに走つているから尚更汗がでてくる  
Tシャツが背中に張り付いて気持ち悪い  
さらにこんな暑い日にはいつも煩く鳴いている蝉も今日はかなり煩い  
まるで壊れたラジオのようだ  
悠斗はなんとなく、この蝉のどこかで聞いたような氣がして思わず  
足を止めてしまった。

「まいつか!」

悠斗は再び足を動かした。たいして氣にもとめず

「礼奈」

「あ、悠斗ー！」

礼奈は公園のブランコに座っていた。その膝の上には黒猫。

「うわ・・・」

悠斗は思わずあとずさりしてしまった。

猫は嫌いだ。

「なによー。失礼じやない」

礼奈はふくれつたらで悠斗を睨んだ

「やうかー？そもそもこんなふさふさな毛とか暑いだろ？」

「いいのー」こんなに暑い夏が悪い

「夏のせこにするなよ」

礼なの口元が緩み笑顔になる。悠斗もつられて笑顔になつたが  
すぐに強張つた表情に戻つた

ついさつき見た夢を思い出したのだ

確かに夢でもこの公園に礼奈と2人でいて、その黒猫もいた  
それでその猫が礼奈の腕から逃げ出して、礼奈は跡を追いかけた  
それで・・・道路に飛び込んで・・・  
悠斗の額の汗はいつしか冷や汗に変わつていた

「悠斗？なんか顔色悪いよ？」

礼奈は心配そうに悠斗の顔を覗き込んだ

「あつ、おう・・・平氣」

無理矢理笑顔を作ってしまった。やはりその表情は硬い  
礼奈は不服そうに頷いた

「ふうん・・・ならいいや。あつ」

黒猫がまたしても礼奈の膝の上から飛び降りた。道路に向かっている  
もしまだ轢かれたら・・・

そう思つと悠斗は反射的に礼奈の腕を掴んだ

「悠斗？」

礼奈は驚いたのか素つ頓狂な声をあげた

「もうさ・・・今日は帰ろう」

悠斗はのどの奥からかすれた声を出した  
蝉の声にかき消されそうなほど小さな声

## 夢（後書き）

中途半端で大変申し訳ない！！！  
頑張つて更新していくので・・・orz  
ごめんなさい・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6829z/>

---

カゲロウデイズ 小説にしてみた

2011年12月25日12時54分発行